

No.242

腸内快覧板

9月 Sep. 2020年 発行

発行所/おみかいき健康クラブ
福岡県福岡市東区松香台1-2-1
TEL092-674-4788 FAX 092-661-1051

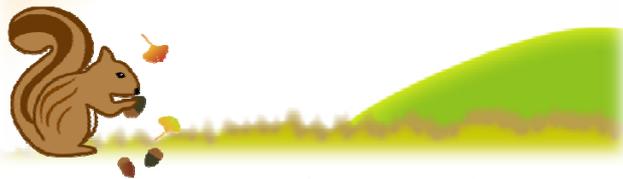
まだまだ続く、新型コロナウイルス

株式会社 健将ライフ
代表取締役 箕浦 将昭

虫の声が秋を思わせるこの頃ですが、皆様方にはおかれましては益々ご健勝のことと思います。いつも健将ライフの商品をご愛用下さり有難うございます。

さて、まだまだ新型コロナウイルスで世界中が混乱しています。コロナウイルス感染に関する専門家がまだにいない状態では仕方ないことですが、こうなっては頼りになるのは自己免疫しかありません。

免疫とは体内に入ってきた外敵を駆除して、健康を保つシステムで、大きく分けて2段階あります。生まれながらに備わっている自然免疫と、特定の病原菌に感染したことで得られ、その外敵を記憶して対抗する獲得免疫です。



こうした免疫があるかぎり、人間は強く逞しく生きていけます。

自然免疫は体内の「警察官」

代表的な自然免疫は外から入ってきた異物を真っ先に叩くNK（ナチュラルキラー）細胞です。働いている時間が一番長く、全身をくまなくパトロールしてくれる、体の最前線を守る、いわば警察官のようなものです。不良少年が極悪人にならないうちに排除するので、体の治安がよくなります。

獲得免疫は強固な軍隊のようなもの

獲得免疫は自然免疫では勝てないときに働きます。代表的なのは、T細胞やB細胞です。NK細胞が警察官なら、こちらは軍隊でしょうか。B細胞がつくり出す「抗体」はミサイルのようなものです。

ワクチンは、非常事態に備えてミサイルを打たせる軍事訓練のようなものです。軍隊は強固にできているため、年を重ねてもシステムは健在で、ワクチンを子どもに打っても100歳のお年寄りに打っても、同じように効果があります。

しかし、自然免疫は獲得免疫のように強くはありません。その日の体調、年齢によって、自然免疫の強さは変わります。体内パトロールがおろそかになると治安は悪化します。

新型コロナウイルスはいつ収束する？

今までにないウイルスなので、予測は困難です。ワクチンがいつできるのか、それよりも早く人間が集団免疫を獲得するのか、まだ誰にもわかりません。

手洗いやマスクで感染を防ぐことは大切ですが、マスクの穴を1メートル四方とすると、インフルエンザウイルスは野球のボール、コロナウイルスはピンポン球ぐらいの大きさです。こう考えるとマスクや手洗いだけでは完全に防御出来ないことがわかります。

今の状況では新型コロナは自然免疫を強化して防ぐのが一番

自然免疫の活性化をサポートするものとして唾液と腸内細菌があります。唾液は抗菌殺菌作用のある酵素が含まれていますので、口から入る有害菌を防御出来ます。次に腸内には体内の免疫細胞が約60~70%も集中していますので、腸内の活躍で防御出来ます。腸内の免疫細胞のカギを握るのは腸内細菌です。

腸内善玉菌が多いと免疫細胞が活性化されます。新型コロナウイルスが体内で増殖するかしないかは腸内の環境によると言われています。腸内善玉菌を増やすのに年齢は関係ありません。誰でもすぐ出来る自然免疫強化の一つです。弊社には腸内善玉菌を増やすサプリメントがありますので、上手に利用して下さい。

秋とはいえ、朝夕の温度差がありますので、ご自愛ください。





達磨の経済学



掲 示 板

高野山真言宗慈明院住職 吉住大慈

お寺にはよく掲示板がある。お寺の行事予定を貼ってみたり、考えさせられる標語が書いてあったりする。『お前の望みが全て即座にかないます様に・・・。ペルシアの呪いの言葉』あるお寺の掲示板に書いてあった。なるほどと考えさせられた。

「輝け！お寺の掲示板大賞」というコンテストが、SNSを使って毎年行われている。投稿者はスマホなどで撮影した写真で、お寺の掲示板の標語を送る。そしてその標語の有り難さ、ユニーク、インパクトを審査するのである。この標語が実に面白い。



2019年の作品『ボーッと生きてもいいんだよ』チョコちゃんに叱られそうだがお寺の掲示板にはピッタリである。2019年の大賞作品『衆生は不安よな。阿弥陀動きます。』松本人志さんの話題になったツイート「後輩芸人達は不安よな 松本動きます」をもじったものである。衆生の身を案じた阿弥陀仏の様子を感じられるユニークな標語である。

2018年の作品『NOご先祖 NOLIFE』お盆にぴったりの標語である。ご先祖様がいない人は誰もいない。『腹が立つ時ブツブツ申せ ブツはブツでもナムアマダ仏』ブツブツと愚痴が智慧になりますように・・・。2018年の大賞作品『お前も死ぬぞ 釈尊』この標語がお寺の掲示板大賞を、広く世に知らしめるキッカケとなったそう。まさに生死を考えさせられる言葉である。

今年も10月末までお寺の掲示板を募集しているそうだ。興味のある方は「輝け！お寺の掲示板大賞2020」で検索すれば、他の入賞作品も見ることができる。何かお寺に書いて貼ろうかなと思ったが、まずは習字の練習から。
合 掌

免疫細胞BAK療法ーガンと共生しよう

海老名卓三郎著 光雲社

抗ガン剤はすべての細胞を殺す毒物で二十年間にわたる新薬の開発にもかかわらず30%の人にガンの縮小効果が見られるだけで、多くの人が副作用に悩まされることとなります。30%の人にガン細胞を殺したり、増殖を抑えることもあるといえるのです。

健将ライフ学術顧問
佐々木 俊雄氏



更に悪い事に有効と思われた人も、その後薬剤耐性が出てきて効かなくなり、全然延命効果に繋がらないということです。ガン遺伝子、ガン抑制遺伝子とありますが実はガンに関係しているだけでなく、正常細胞の増殖を制御している遺伝子で、ガン細胞も含めて、正常の分裂増殖を行う細胞に参与しているのです。

構造と機能が解明されている機能性因子を含む機能性食品が考えられ、似たものに生物製剤というものが考えられました。ガンが原発巣だけであれば、手術して摘出すればいいのですが、すでに転移がある場合で、この時原発巣を摘出すると、かえって転移巣が増殖を始め死期を早めることになるのです。



サルノコシカケの抽出物で蛋白が結合した多糖体 psk は原発・転移両腫瘍の治癒をもたらします。一方しいたけの生成物で多糖体β-グルカンであるレンチナンは全く効果を示しませんでした。β-グルカンそのものは全く抗腫瘍効果が無いのです。マツタケ抽出物でやはり蛋白質を含む多糖体が抗腫瘍効果を示し、α-グルカンに精製すると活性が無いことを確認しました。
次号へつづく